焦点

— 2 —

たたかつて血路を切りひらくこと

高野　実

三池のみなさん！

私たちは、三池のみなさんが、三井王国をゆさぶるほどのたたかいを、いくたびか、たたかい抜かれたことを、知つています。文字どおり、〃家族ぐるみ〃の威力を発揮して、日本労働運動史上に、新たな〃光〃を投げて下さつたことを、よく知つています。

私たちは、いくども、お礼をいい、いくども誇らしげに宣伝してきたものです。

三井王国が、いな米日独占が、みなさんを、嫌い、憎み、やつつけてしまう陰謀をくわだてるのは、むしろ、当然のことでしよう。

三池のみなさん！

石炭産業を斜陽産業に仕立てたり、熱源転換が歴史的必然であつて、まるで〃天災〃ででもあるかのように、ふいちようしたりしてその際で、大量首切り、企業分散（製作所の分離や美唄売山、明鉱など）を持ちだしているのです。

いま、米日独占は、〃三鉱連をなくしてしまえ！〃とがなりたてています。〃あとは、皿（さら）までたべろ！〃ときあいをかけているところです。

国鉄労働者も、郵便屋さんも、教師も、私たち機械労働者も、みんな、歯をむいた敵のツラとツラをつきあわせているところです。

いわば、三池の兄妹が、どう闘い抜いてもらえるか、それが、今日の合理化反対闘争の〃め〃のようなものです。——台風に〃め〃があるように。

三池のみなさん！

私たちは、ご家族をふくめて、きつと、立派にたたかい抜いてくださるから、心配はいらない、そういいあつています。

しかし、〃英雄なき一一三日〃のときに較べて、敵は何倍かの強権をふるうことが、わかります。とても苦しいたたかいだということが、よくわかります。

ですから、私たちの小さな力をあわせて、台風の〃め〃のような三池をたすけなくちやいけないといいあい始めたのです。

私たちは、総評を中心に、地域ブロツク共闘をむすんで、単産単組の闘争力を一つに結集して、三池の兄妹と激励しあい、頑張つて今日の力を二倍にし三倍にし五倍にして、必ず、勝つてみせたいものです。

さて、三池のみなさん！

敵は、さらに、みなさんの〃力の分散〃をねらつて、製作所の分離問題をだしています。

技術者としての立場からも、機械産業は、〃好況だ〃という事情からも、製作所分離が、〃新たな関心〃を呼ぶことも、理解できますが、この問題が、企闘の最中に提案されているということは、即ち、〃闘争力の分散〃をねらう敵の攻撃としか、うけとれません。

私たちの組合機関でも、はなしがでました。

〃闘争の前に組織いじりはいけない〃〃いままでは、おなじ職種の製作所の兄妹に、何もしなかつたが、今度は、ぜひ積極的な応援をしよう〃〃三池の兄妹は、あくまで大同団結で〃ということになりました。

三池のみなさん！

敵は一つです。敵の政策も一つです。

三池の大同団結万才です。総評を中心とする共闘結集万才です。

みなさん！

闘つて、今日の矛盾を克服しましよう。

闘つて、今日の血路を切りひらきましよう。

遥かに、三池の兄妹、ご家族のみなさんの、ごふんとうを祈つて

（九月二十三日於新居浜）

（筆者は全国金属労働組合副委員長、前総評事務局長）

成績はまだ序ノ口

敵の戦力となる会社預金

組合では労働金庫強化のため会社貯金保有者、第一次分として最低三千円を労働金庫に預け替えするように指令した。

すでに労働金庫から宮浦、四山に月、水、金、三川は火、木、土に係員が出張して預入れの事務をとつている。その他の支部は日曜日を除いた毎日が預金引出し日であるので、支部から労金に電話すると係員が急行することになつている。

会社の貯金はわれわれの首を切る戦力となつている。この際みんな一銭残らず労金預金に踏切つて、労働者の戦力を増やさなければならないときである。

すでに第一次も二十四日現在で約八百名の人たちが預金替えを行つた。金額にして約七百万円である。

一方、会社預金を七月三十一日現在でみてみると、宮浦（九千四百万円）三川（一億二千九百万円）四山（六千四百万円）港務（三千三百万円）本所（七千二百万円）製作（不明だが約五千万円は予想される）で計四億四千万円という膨大な金額が預金されている。預金者は約一万名であり、一人約四万五千円が預金していることになる。

現在までの切替え状態をみると人数にして、一万名のうちの五百名で約八分しか過ぎず、金額にしても一分足らずである。

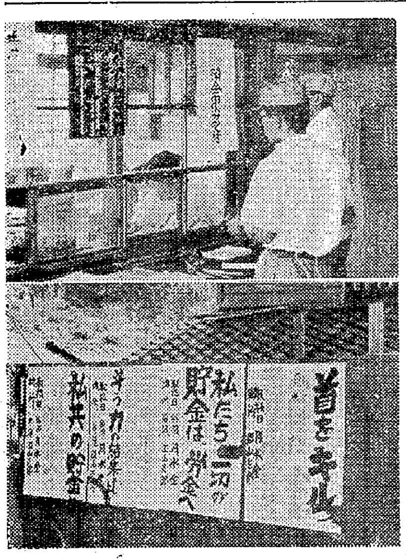
組合では第一次切替えの目標を会社預金の約一割の四—五千万円としている。第一次の結果いかんによつて、さらに第二、三次の計画をすすめることになつている。

ただ、第一次が最低三千円となつているところから、三千円しか切替えていない人が多かつた。その中で最高八十万円（本所）の人もあり、多い人は殆んど十一二十万円も切替えを終つた人もいる。

われわれはこの際、労働者という立場を冷静に考えて、労金預金を強力に行うとともに、職場、地域では皆の協力を呼びかけなければならない。

労金中島大牟田支店長の話　一人三千円となつているところから、三千円しか切替えていない人も相当あります。激しい闘いが予想されるとき、労金としては生活資金は方針通り引受けますが、この際、会社預金している人たちは、闘いに勝抜くためにも、揃つて労金切替えをされるようお願いしておきます。

なお、労金では緑ガ丘、勝立に出張預金をしてから約一年たつが、預金も三千万円という好成績をあげている。ただ、主婦会約一万三千のうち、預金者は半分足らずの六千名であり、こんごは最低百円でもよいから一軒に一札は必ず労金通帳をもつてもらうように努力をつづけることになつている。



【写真】四山での預金風景と情宣掲示

全力をあげて闘う

太田議長来山して激励

総評太田議長は二十三日来山、本部組合長室で組合三役と会談したあと、記者会談をおこなつた。このあと、三川支部に向つたが、この日は時限ストの日であり、三川支部では地域分会長、主婦分会長の合同会議がひらかれていたが、出席した太田議長は「総評は全力をあげて支援する、さいごまで闘つて下さい」と激励した。以下は記者会見での太田議長の談話である。

総評としての決意

いま、炭労にかけられている激しい合理化のあらしは、決して「不況」のためではない。

いわゆる独占資本が、こんどの国内外における企業競争から発生する一切のシワ寄せを労働者だけに転嫁するための強引な方策だ。

石炭産業をとつてみても、経営政策上のいろんな欠陥を何一つ反省をせず、鉱区統合とか基本的な設備更新とか技術向上とかをまるきりサボつて、好況で炭価を吊り上げ、不況でクビを切る、という無能経営ぶりを天下にさらしている。

こんな政策では、働らく者としてたまらない。警職法や安保の改定でさらにわれわれを金しばりにする意図があまりにも露骨だ。

総評としては、九月十八日の評議員会で、このような時点での炭労および遠賀川地区における「反失業闘争」をとり上げ、決意を新たにしたわけだ。

われわれの基本的な考え方、総評としての、いままでの統一闘争は常に炭労を背景とし、炭労の援助をうけておこなつてきた。だが炭労のこんどのクビ切り合理化反対闘争は、極めて主要且つ困難な要素をかつてなく持つているからたとえば国鉄志免の闘争、時間短縮の闘争、全逓のILO条約批准合化のガス転換、こういうたたかいが全部、炭労の闘争をかち抜くためにつつんでいく。

すべての総評の闘争が炭労をつつんでいくようにする。総評としては、炭労の闘争が勝利するまでは、一切のカンパをすべてこれに投ずるし、たたかいを絞つて、勝敗がきまるまでは他の闘争はやらないというその位のつめた気持ちをもつている。

だから、全国単産の幹部と岩井事務局長が十月五、六日の炭労大会以後福岡に結集して打合せを全部済ませるし、十月初旬頃から総評議員団が数十名福岡に乗りこむし、第二次社会党大会が終つたら百名ほどの代議士を福岡に参集してわが方の闘いをPRすることになつている。

これからの闘いは炭労に全力をあげている。だから、大牟田などは拠点中の拠点になる。

合理化闘争と反失業闘争

賃上げ闘争とは違うからこんどこそ政策的な転換ができるような少くともそういうものが求められない以上は、闘いが続くと思わなければならない。それができないと、今後のあらゆる産業の合理化には勝てないことになろう。

技術革新からくる合理化の推進が、ここで国家に完全雇用をさせながら技術革新を進めるという新らしい政策が出てこなければならない。それを、組織的なストライキと大衆行動との攻防によつて求めていく。

そういう意味でこれから炭労の合理化闘争と遠賀川の反失業闘争とを国民に徹底的にPRしなければならない。ヘリコプターも使つて徹底的にやる。

闘争資金について

一千万円を予備金その他から出して、そのごは総評として総力をかけ臨時大会をひらき、徹底的なカンパをする。

やはり、この闘いで総評としては、一つは技術革新からくる労働者の犠牲を資本家、国家の責任として負わせるということと、もう一つは安保態勢を勝抜くために守勢から攻勢に転ずる転機をつかむ。

ここでそれをつかまなければ、安保態勢も打破できない。そういう意味では、どんなにいつても言いすぎることのないように、全力をこれからの炭労闘争並びに遠賀川を拠点とする反失業闘争に集中する決意でいる。

手段を選ばぬ反動

松川事件の岡田氏と対談

松川判決報告集会は九月二十五日午後六時から労働会館大ホールでひらかれたが、集会にさき立ち、被告（無罪）の岡田十良松氏は組合本部を来訪して、これまでの支援を感謝し、挨拶を行つた。編集部では、そのごの状況について同氏と対談を行つた。

編集部　おめでとうございました。裁判やり直しという結果は、無罪判決を期待していた私たちには不満がありますが、しかし大きな勝利だと思います。判決を経てどんな気持ですか。

岡田　まず最初に組合員、家族の皆様に対して、心からこれまでの支援に感謝いたします。どんな言葉をつかつてもお礼は言いつくされません。

真実は潰し終らせることはできません。いつかは明らかになります。だが、それを守るという力が弱いときは、無実の罪で殺されます。これは歴史上多くあつています。もし、私だけの力で闘つていたら、恐らく十年どころか何年も経たないうちに潰されて無実の罪で死刑台に立たなければならなかつたかも知れません。最高裁は一番闘い難い所です。一審での力の百倍、二百倍の力が入ります。それも、みなさんのお陰でそういう力が得られ、ああいう結果になりました。

歓迎できぬ門田裁判長

編集部　そのごはどんな状態ですか。

岡田　裁判も仙台へ移り、裁判官も門田裁判長ときまりました。だがこの門田裁判長というのが反動性が強く、例えば、定員法問題で団交場にきたものを警察が住居侵入、暴力行為だと起訴した事件が裁判にかかりましたが、一審では定員法による団体交渉であり、団体交渉は憲法で認められている。団体交渉をも認めないなら、それは憲法違反だと、無罪の判決をうけました。

検察側ではこれを起訴し、二審にかかつたが、この時の裁判長がこの門田で、スピード裁判を自慢にする彼は、証人の証言もロクスツポきかず、バタバタと裁判を終り有罪の判決を下したのです。

私たちとしてもこの裁判官に対する態度を早急に決めなければなりませんが、とにかく歓迎できないということで対策を立てることにしています。

ところが彼は年内に第一回の裁判をやるといつています。私たちとしても早く裁判をやつてもらつて一刻も早く被告の肩書きを取つてもらわなければなりませんが、あくまでも慎重にやつてもらわねば困ります。記録をみるだけでも来春三月までかかるといわれているのに、こんな有様です。

苦しんだ家族たち

編集部　被告の方の状態は…。

岡田　判決後、北海道から九州まで報告会等に出ています。家族も家族会をつくつています。家族中には家屋敷をなくした人、人殺しの家族だといわれ就職もできなかつたり、悪口をいわれる子供もいましたが、今では喜んでいます。

弁護人も二審で弁護した二五一名の人が全部付いてくれるだろうと思つています。いま裁判に備えて合宿されています。

編集部　とくに裁判を通じて感じられたことはありませんか。

岡田　私たちが犯行をやつていないことを知りながら、ああいう裁判をしたことは断じて許せません。検察庁は少数意見を足がかりとして、こんどこそやつつけてやると、まるで仇でも討つように言つています。

これでは全く目茶苦茶です。これは重大なことだと思います。やつたかやらぬか分らぬが転覆の事実はあるから、お前たちがやつたのだ、こういうことは反動的な立場であり、これが松川事件をつくつています。ところが、いまはこれが安保態勢を強制したり、労働者には首切り、勤評、母親大会の赤呼ばわりとなつています。これはすべて反動的な態度からきているのです。

彼らは思う通り行かないときはどんな手段でもとります。私たちは社会的にこの反動性を潰さねばなりません。私も皆さんの企反闘争にも、そういう深い観点からみていますし、松川事件もそういう点から見て貰つて、一層大きい力を集めてお互いに闘いを進めていかねばなりません。

さいごに皆さんの健闘をお願いします。

×　×

10月20日ごろ　第七次統一行動

安保共闘　秋闘方針きめる

総評、中立労連の四十六単産代表は九月十五日午後東京・衆院第一議員会館で第二回安保改定阻止共闘会議を開き、秋からの闘争方針を討議、炭労の企業整備反対、勤評反対闘争などと結合し、十月二十日ごろ第七次統一行動を行なうことなどをきめた。

▽拠点闘争＝炭労の企業整備反対失業反対、国鉄志免炭鉱払下げ反対のため九州、常盤、北海道で長期体制を確立する。具体的内容は九月十七日福岡、二十一日札幌で共闘委を開いてきめる

▽第七次統一行動＝十月二十日ごろ第七次統一行動を行う。拠点地域では共闘翼下組合はスト、その他の組合は時間外職場大会中央、地方で集会を開く。

▽第八、九次＝十一月中旬から下旬にかけて、第七次を上回る強力な統一行動を行ない、各拠点での失業反対大行進と合わせ秋季闘争最大のヤマをつくる。

▽失業者救援運動＝以上の闘争と併行して九月下旬から十月中旬にかけて炭鉱失業者救援運動を行ない、組合員一人米一握り（または十円）カンパなどを行う

據点地区大会

九月三十日午後一時より福岡市東公園で「九州拠点地区労働者総決起大会」が開かれる。大会の主な目的は、三井・二瀬・杵島を中心とした合理化反対、十月二日に予定される志免の売山反対等の闘いを目標に約七千名を動員する。